

第2部 自然の保護と利用

第1章 自然環境の現状と対策

第1節 自然環境の現状

1 植 物

植物は、自然環境に最も支配されやすい生物であり 気候や地形、地質の制約を受けることが多い。

本県の気候は、寒冷 多雨 豪雪を伴う北陸型とは異なり、むしろ年平均気温14℃内外の温暖な地といえるが、地勢から気候区に分ければ、平地部の山陰型気候区と山間高冷地の中国山地型気候区に区分される。したがって、生物も寒暖両系の生物が混交して生息している。

植物の分布を自然植生からみれば、低地には温帯性植物であるツバキ・シイ・カシ・タブノキなどの常緑広葉樹が広がるが、標高が高くなるにつれ、コナフ・アベマキ帯、フナ帯、低木草本帯へと移行する。なかでも、大山の中腹の西日本最大の規模を有するフナの原生林や山頂部のキャップボク純林は、本県における代表的な植物の分布域を形成している。また、中山町の海岸には、自生の南限といわれる北方系のハマナスが生育する反面、大山北ろくの海岸部には、南方系のハマヒサカキが生育するなど、寒暖両系の植物が分布している。

また、平野部の神社の境内や城跡には自然性豊かな森林が残存し、県民に親しまれている。

2 動 物

本県の動物についてみると、鳥類は本邦に生息する野鳥の約半数に当たる200種が確認されている。大型動物は少なく、わずかにツキノワグマ、イノシシが知られているにすぎず、他は—ホンザルなどの小型哺乳動物が多い。これら諸動物の生息分布域は、生活環境や食餌の関係などから、自然の生態系がよく保全されている地域に分布し、県東部では八頭郡南域、中部では三徳山、打吹山、西部では大山、蒜山を中心とする地域が主たる生息域といえる。特に、大山には、本邦特産の一属一種の珍獣として知られているヤマネや200種に及ぶ野鳥、並びに1,000種を超す昆虫類などが生息し、西日本における小型動物の楽園となっている。しかし、県下の動物のなかで、学術的に最も貴重なものは、中国山地の渓流に生息し、「生きている化石」といわれている有尾両生類「オオサンシ ウウオ」である。

3 地形・地質

本県の地形、地質は、構成する地質や火山活動などにより 県南域と県北域では著しく相違している。

県南域は、三郡変成岩類や花崗岩類などの古い地層からなるため地形は急しゅんで、そこには侵食により生じた遷急点か随所にみられ、庵や瀬などの自然美豊かな景勝地が形成されている。反面、北域は、比較的新しい地質に属する第三紀層やこれを覆う鮮新世火山岩類が広く分布し、地形は一般になだらかである。さらに、本県には大山をはじめとする新しい火山活動の所産である火山地形が各地域に分布している。なかでも、県東部の扇ノ山、氷ノ山及び県西部の大山火山群などは、秀麗な山容と雄大なスロープとが相まって、優れた火山地形を形成している。

一方、日本海に面する130kmに及ぶ海岸域には、日本海の荒波と河川の流砂により形成された鳥取砂丘などの砂丘や、砂州が発達し、後背地の松林と相まって、白砂、青松の美しい砂浜海岸が各所に見受けられる。

また、県東部の岩石海岸には、洞門、洞窟、波食棚等のめずらしい海岸地形が分布し、これらは透明な海と緑の山とよく調和し、山陰の松島といわれる良好な自然景観が形成されている。

4 景 観

本県の地形的景観の特色は、中国山地の分水界が北に偏り、更にその北側に大山火山地帯が横たわって日本海に迫っているため、極めて縦深が浅く、山並の重層する山国的な景観を呈する点にある。しかも、山陰的多雨と急傾斜の短流河川により、山地には深い侵食谷が発達し、河川上流には峡谷のほか、庵や溪谷の発達が顕著である。

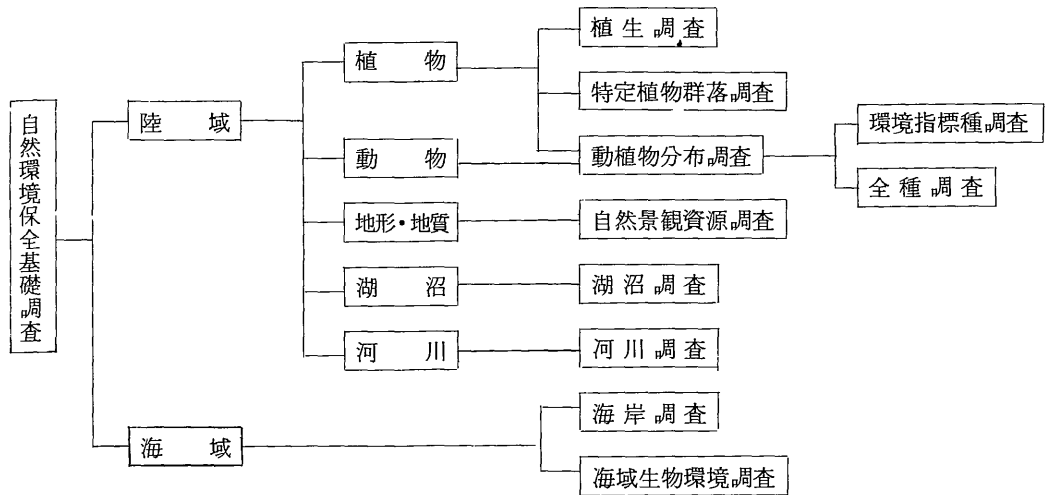
大山火山帯では、主峰大山のトイテ式複式火山のほか、鷲峰山、三徳山、蒜山、氷ノ山など鐘状火山の面影をとどめるものほか、船上山、鉢伏山、霊石山、扇ノ山など溶岩台地状を呈するものもあり、多様な山地景観を示している。

海岸の景観は、肢節密度の高い東部リヤス式岩石海岸や中部岩石海岸、これらにつなぐ鳥取、北条砂丘帯と弓ヶ浜砂川など、いわゆる日本海岸地形に特色がある。

生物的景観についてみると、水平的には沿海部のクロマツ林帯からアカマツ林、シイ、タブなどの常緑広葉樹林帯へ、更に山間奥地のスギ、ヒノキ人工林への移行、垂直的には低位落葉広葉樹林帯からフナ帯を経て、ダイセンキャップボク等を含む低木草本帯への移行など自然性豊かな美しい景観が形成されている。

第2節 第3回自然環境保全基礎調査の概要

自然環境保全基礎調査は、自然環境保全法第5条に基づき、おおむね5年ごとに実施される調査であり、昭和48年度に第1回目の調査が行われ、昭和63年度から第4回の調査が実施されている。



1 植生調査

極相としての植生帯をみると、本県の最高地は1,729m（大山剣ヶ峰）であり、垂直分布的概念から見ると、常緑広葉樹林帯としての照葉樹林帯と落葉広葉樹林帯としてのフナ帯の二つの植生帯が存在することになる。また、大山や氷ノ山など中国山地の標高の高い山岳地では、厳しい季節風や積雪の影響を受けて、キャフボク、クソヨゴ、ヤマヤナギなどの低木林やヒゲノカリヤス、ナンゴククガイソウ、コメハツガサクフなどによる高山性の草原など特殊な植生帯が発達している。また、海岸では砂丘や海岸崖の発達が著しく、鳥取県は面積こそ小さいけれども、その植性はきわめて多彩である。以下、照葉樹林帯域とフナ帯域とに分けて本県の植生を概説する。

(1) 照葉樹林帯域

鳥取県では、標高400～500mあたりまで照葉樹林が見られる。しかし、ほとんどの立地が建造物、農林業地に変換され、自然植生は社叢や城跡、利用困難な土壌の浅い急傾斜地等特殊な立地にかぎって残存しているにすぎない。この林帯域の極相林としての照葉樹林は、日本海気候を反映して常緑高木の構成樹種は単純化し、スダシイ、タフノキ、クロキ、モチノキ、ウフジロカシ、シフカシ、サカキ、タフヨウ、アカカン、カゴノキなどとなっている。一方、フナ帯域に分布の中心をもつとみなされる落葉広葉樹の混生かしばしば見うけられ、垂直分布の乱れが観察される。群集単位で見ると、平野部ではスダシイやタフノキの優占するスダシイーヤブコウジ群集、山間部ではウフンガシーヒメアオキ群集、シフカシ群集、ケヤキーチャボガヤ群集などが一般的である。

山陽側では土地的極相として低山域の尾根部にアカマツ自然林が多産するか、本県ではむしろ稀で、八頭郡用瀬町付近や日野郡日野町黒坂から日南町生山付近あるいは東伯郡赤碓町の船上山などと数少なく、多くは断片的にすぎない。これらの林分は希少価値と同時にヒメコマツを含んでいたりと、山陰地方では稀産種であるケンカイツツを有する林分があったりと貴重な群落が多い。

その他、モ群落、イヌブナ群落、アフカシ群落も少数ながら存在する。

鳥取県の沿岸には三大河川の千代川、天神川、日野川の河口を中心にして海岸砂丘が広く発達している。

特に鳥取砂丘は12 kmに及ぶ奥行を持つ砂丘が保全されているため、砂丘列をはさんで海岸砂丘と内陸型砂丘が存在し、多様な砂丘植生が見られる。一方、砂丘と交互して見られる海食崖など岩石海岸にはクロマツ自然林が普通に見られるが、大山北麓東伯郡中山町御崎の海食崖上のハマヒサカキ群落は北限の群落として貴重である。また、南限群落としてのハマナス群落が断片的ではあるが白兔海岸および中山町の海岸に見られる。

湿原は、山地がちの地形を反映して鳥取県の場合全般的に少ないが、特に山地の湿原は希少である。いずれも天然記念物に指定されている岩美郡の扇ノ山山麓、標高約400 mに位置する唐川湿原と菅野湿原が特記される。唐川湿原はカキツバタやトキソウ、菅野湿原はオオミズゴケやヨンなどによって特徴づけられる中間湿原である。特に後者は花粉分析によって3万年以上の歴史を有することが知られている。

代償植生を見ると、言うまでもなく多くは田畑やアカマツ、スギ、ヒノキなどの植林あるいはコナフなどの二次林であるが、傾斜の緩やかな山脚部には本県全域にわたって二十世紀ナシを中心とするナシ園が作られている。また、県の東部地域を中心にしてカキやクリの栽培も盛んである。一方、クロマツの砂防林によって安定化された砂丘地ではフドウ、スイカ、ナガイモ、フノキョウ、タバコなど多彩な砂地農業が営まれている。大山山麓のフナ帯域と接する地域では採草地や放牧地が多い。

(2) フナ帯域

照葉樹林帯域からフナ帯域（いわゆる中間温帯の落葉広葉樹林を含む）への移行は所によってかなり相違し、標高300～600 mの範囲で起る。山地の多い本県の場合、相当面積がこの林帯域に包含されることになるが、大山山域および東部山域を除くと、大半がスギやヒノキの植林あるいは二次林化され、自然林の残存率は小さい。

フナ帯域の主体となる自然林はフナ林であるが、本県のフナ林は日本海型フナ林（フナーチンマザサ群団）に包括されるブナークロモン群集にまとめられる。この群集はクロモジ、チマキザサ、コバノフユイチゴなどによって識別されるはかエゾユズリハ、ハイイスカヤ、ヒメモチ、ツルンキミ、ムフサキマユミ、ヤマソアツ、シノフハグマなど常緑の低木や草本によって特徴づけられる。

表日本型フナ林（フナースタケ群団）の要素と見なされるナツツバキ、イヌシア、クマシア、アオハダ、タンナサワフタキなどが混生するのも本県のフナ林の特徴であり、照葉樹林の種類構成が単純化するのに反して、フナ林は複雑化する傾向が見られる。その他、東部のフナ林にはスキの混生が著しくスギ垂群集に同定される。特に、氷ノ山（1,510 m）や智頭町の鳴滝山（1,287.3 m）に顕著であり、フナ林の上にスキの突出する景観は特異である。

フナ帯域の特異な群落として、東大山域の勝田ヶ山（1,149.1 m）の支尾根の甲川に面する急斜

面の800m内外の標高地で1km余りの幅をもって断続する細長い露岩地に、それぞれはやや断片的ではあるがヒメマツ群落か成立している。一方、溪谷の河床沿いにはサワクルやトチノキの優占するサワクル—シュウモンシダ群集が発達している。この群集の重要な構成種であるトチノキは本県の東部山地に多いが、西部山地には比較的少なく偏在傾向が見られる。

本県には亜高山針葉樹林は存在しない。大半の山地では山頂までブナやミズナフが優占する森林に覆われるが、大山をはじめ幾つかの山岳では山頂効果の影響により山頂付近に特異な低木林や草原が発達している。特に大山では、土地的条件が加わってその状態が顕著に現われ、1,200m付近から上部に明白な自然植生としての低木林と草原が広く分布している。低木林では特別天然記念物に指定されているキャラボク林やヤマヤナキ林、ヒメヤシブシ林、オオイタヤメイゲツ林、またミズナフ—ナナカマド—ヤマヤナキ—ツノハシバミなどが混生する低木林がいわゆる大山本体に見られ、クソヨコ林か三鉢峰以東のいわゆる東大山に、北方遺存群落であるミヤマハンノキ林が烏ヶ山に分布する。キャラボク低木林は、あるいは亜高山針葉樹林の代償的な林分と考えることが出来るかもしれない。

草原では乾生型のヒゲノカノヤス—カノヤスモドキ群落、好雪湿生型のナンゴククガイソウ—ヒトツバモギ群落、オオバギボウシ群落、高山性遺存群落としてのコメハツカザクフーツガザクフ群落などがある。その他、氷ノ山山頂一帯に発達するチシマザサ群落、那岐山(1,240m)のサフサドウダン—シキウツキ低木林も特記される。

代償植生は大半がスキヤヒノキの植林であるが、部分的にカフマツも試験的に植林されている。

2 特定植物群落調査

第2回調査(54年度60地点)以降で新たに調査するの必要を生じた群落の調査と既調査群落に対して、群落の消滅、変化、保護対策の現状、変化状況等を把握する追跡調査が59~61年度にかけて実施された。

59年度は、新規に岩美町地内坂の上神社社叢他の7地点を追加調査し、60年度は全群落の変化を調査した。61年度には、さらに8地点を追加するとともに、典型的な群落を選定し、以降定期的に調査する生育状況調査が実施された。

3 海域生物環境調査

第2回調査(54年度5箇所)をした地域を対象に、生物の生息状況及び生息環境の現況についての時系列的变化を59年度から61年度にかけて調査された。

調査地は小鴨磯(岩美町)、御崎(中山町)他の5か所の海岸である。

4 動植物分布調査

59年度に、環境庁が「環境指標種調査」(身近かな生きもの調査)として、最適な生息、生育環境の幅が狭く、環境の変化の影響を受けやすい生物であり、かつ識別が容易な動物40種、植物30種を選定し、一般の自然愛好家に参加を求めて、通称「緑の国勢調査」として実施した。

5 自然景観資源調査

第3回の調査の中で、62年度の単年度調査として実施されたものである。地形、地質、植生及び野生動物といった環境要素が総合され、人間の眼に映ずる範囲において、すぐれた自然景観として認識される自然現象の位置及び特性等について県下全域を対象として調査が実施された。

6 巨樹巨木林調査

この調査は、第4回自然環境保全基礎調査の一環として、昭和63年度に実施されたもので、地上130cmの位置の幹周が300cm以上の樹木(巨樹)及びこれら複数生育している樹林(巨木林)を対象に調査した。そのとりまとめ結果の概要は次のとおりである。

(1) 調査件数

巨 樹	巨 木 林			合 計	測定巨木総数
	樹 林	並 木	小 計		
373 件	130 件	14 件	144 件	517 件	960 本

(2) 主な樹種別の最大巨木

樹 種 名	幹 周 m	所 在 地	通 称
アカマツ	6.53	日南町湯河	湯河の天狗松
イチヨウ	7.90	郡家町西御門	西御門の大イチヨウ
エドヒガン	6.10	中山町高橋	
エノキ	7.50	会見町朝金(浅井家)	
カツフ	12.90	河原町落河内	落河内のカツフ
クロマツ	5.70	溝口町金屋谷	
ケヤキ	5.90	大山町大山	
スギ	8.45	日野町下菅(下菅神社)	
スダジイ	11.40	東伯町宮場(春日神社)	伯耆の大シイ
タフノキ	7.65	郡家町花(諏訪神社)	大タモの木
トチノキ	8.08	若桜町春米(氷ノ山)	
ミズナフ	7.30	大山町大山(一ノ尺)	
モミ	5.80	倉吉市仲ノ町(打吹山)	
ムクノキ	8.30	岸本町岸本(岸本神社)	
カゴノキ	4.63	八東町清徳(清徳寺)	
フナ	4.90	赤碕町(船上山)	

第3節 保全すべき地域

県内における自然環境を保全すべき地域は次の表のとおりである。

なお、評価については、部門ごとに特殊性があり一律に規定することはできないが、学術的な観点から全国レベルのもの－A級、中国地方レベルのもの－B級、県レベルのもの－C級として表示した。

表1 自然環境を保全すべき地域(1)

評価部分	植物部門	動物部門	地形部門	地質部門	計
A 級	10 箇所	7 箇所	2 箇所	3 箇所	22 箇所
B 級	10	8	21	19	58
C 級	17	7	39	—	63
合計	37	22	62	22	(127) 143

(注) 合計欄上段()は地域数の実数

表2 自然環境を保全すべき地域(2)

部門	東部地区	中部地区	西部地区	計
植物	27 箇所	5 箇所	5 箇所	37 箇所
動物	9	5	8	22
地形	32	15	15	62
地質	11	4	7	22
合計	(70) 79	(23) 29	(34) 35	(127) 143
景観				13

(注) 合計欄上段()は地域数の実数

表3 保全すべき植物

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評価	備 考
覚 寺 神 社	鳥取市	シイ林	C級	
伏 野 神 社	〃	〃	〃	
御熊神社とその 周辺	〃	〃	B級	
細 見 神 社	〃	〃	C級	
香 取	〃	シイーカン林	A級	指定済
松 上	〃	シイーサカキ林	〃	〃
菅 野	国府町	オオミスコケなどの湿原植物	〃	〃
甘 露 神 社	岩美町	シイ林	C級	
太 田 神 社	〃	〃	〃	
院 内 部 落 周 辺	〃	常緑広葉樹林	〃	
唐 川	〃	カキツバタなどの湿原植物	A級	指定済
坂 谷 神 社 岡 崎	福部村	常緑広葉樹林	C級	
南 田 神 社	〃	シイーカン林	B級	
鹿 野 城 跡	鹿野町	タブーシイ林	C級	
赤 蔵 神 社	船岡町	シイ、カン、サカキ林	B級	
三 谷 神 社	河原町	サカキ林	C級	
北村権現の森	〃	ツバキ林、タブ林、アサダ	〃	指定済
陣 鉢 山	若桜町	ブナ林	B級	
糸 白 見	〃	ヒメコマツ・ジャクナケの自生地	C級	
弁 天 谷	〃	〃	〃	
頭 巾 山	用瀬町	針・広葉樹混交林	〃	
洗 足 山	〃	ヒノキ・ヒメコマツ林	A級	指定済
犬 山 神 社	〃	カン、シイ林	B級	
三 原 高 原	佐治村	ススキ・アカモノを中心とした風衝草原	〃	国定公園に 指定済
三国山・高鉢山 ・高山	佐治村 河原町	ブナーミスナフ林	A級	一部国定公園に 指定済
鳴 庵 山	智頭町	フナ林		

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評価	備 考
虫 井 神 社	智頭町	カシ、サカキ、フナ林	B級	
笏 賀	三朝町	ヒノキーツクンジャクナゲ林	A級	指定済
田 代 部 落	〃	ヒケノガリヤス・アカモノが密生する風衝草原	B級	
若杉山・津黒山	〃	アカモノを混える風衝草原	C級	
曾 谷	関金町	オオミズコケの自生する湿原	B級	
笹津・御崎海岸	赤碕町 中山町	ハマヒサカキ群落	A級	
馬 場	西伯町	シイ林	〃	指定済
本宮部落周辺	淀江町	ツバキモチノキ林	C級	
別 所	日野町	コナフ林	〃	
三 栄	日南町	ケヤキ林	〃	
日 谷 神 社		ナフ、アカマツ林	B級	

表 4 保全すべき動物

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評価	備 考
千代川河口	鳥取市	水鳥(ハクチョウ、カモ類)の渡来、生息地	C級	銃猟禁止区域
河内～安蔵	〃	カシカの生息地	〃	
院 内	岩美町	モリアオガエルの生息地	〃	
酒 ノ 津	気高町	ウミネコの渡来地	B級	県立公園指定済
殿 ～ 矢 原	鹿野町	カワシンジュカイの生息地	〃	
鴛 峰 山	〃	鳥類、蝶類(キフチョウ)の生息地	〃	県立公園指定済
大 江 ノ 奥	船岡町	イノシシ、クマタカの生息地	C級	
三 原 高 原	佐治村	鳥類、蝶類(ウスイロヒョウモンモドキ)の生息地	B級	国定公園に指定済
三 国 山 ・ 高 鉢 山 ・ 高 山	佐治村 河原町	鳥類(クマタカ)、蝶類(ミドリシンミ類)の生息地	A級	一部国定公園に指定済
天 神 川 河 口	北条町 羽合町	水鳥(ガン、カモ、シギ、チトリ)の渡来、生息地	B級	銃猟禁止区域
加 谷 ～ 木 地 山	三朝町	カシカの生息地	C級	
福 山	〃	オオサンショウウオの生息地	A級	
三 軒 谷 大 谷	〃	魚類(イwana、ヤマメ)、鳥類(ヤマセミ)の生息地	C級	

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評価	備 考
今 西	関金町	オオサンショウウオの生息地	A級	
日 野 川 河 口	米子市	水鳥(シキ、チドリ、カイツフリ)の生息地	C級	銃猟禁止区域
彦 名	"	コハクチョウを主とする水鳥の渡来、生息地	A級	鳥獣保護区
印 賀	日南町	フッポウソウの生息地	"	
板井原川～ 真住川	日野町	アマコの生息地	B級	
上 菅	"	オオサンショウウオの生息地	A級	
毛 無 山	江府町	キツキ類の生息地	B級	
谷 山 川	溝口町	オオサンショウウオの生息地	A級	
二 部	"	カミキリムシ、ハナムクリ類の生息地	B級	

表5 保全すべき地形 地質

〔地 形〕

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評価	備 考
児 落 の 谷	鳥取市	若返りの谷、学術参考地	C級	
雁 金 山	"	花崗岩の孤立丘	"	
矢 山	"	孤立山地地形	"	
長 柄 峡 谷	"	河川争奪によってできた深い侵食谷	"	
摩 尼 山	鳥取市 福部村	花崗岩質岩石の孤立山地地形	"	
毛 無 山	鳥取市 鹿野町	安山岩のドーム状地形	"	
大 石 峡 谷	国府町	上流型の峡谷地形	"	
今 木 山	"	沖積平野における残丘	"	
菅 野	"	湿原を有する溶岩台地地形	A級	指定済
金 峰 山	岩美町	第三紀層の孤立山地地形	C級	
立 岩 山	"	急傾斜を有する孤立峰	B級	
酒 ノ 津	気高町	垂直な岸 幅広い侮食台 離れ岩などが発達する岩石海岸	"	県立公園指定済
鷲 峰 山	鹿野町	開析の進んだ火山地形	"	県立公園指定済
長 尾 鼻	青谷町	安山岩溶岩の断岸地形	"	県立公園指定済

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評価	備 考
姫 路 峡 谷	郡家町	上流型の峡谷地形	B級	
猫 山	〃	急傾斜面を有する孤立丘	C級	
霊 石 山	河原町 郡家町	山頂に平田面を有する火山地形	B級	
遠 見 山	八東町 若桜町	古生層の壮年山地地形	C級	
諸 鹿 峡 谷	若桜町	安山岩溶岩の急崖地形	B級	
城 山	〃	古生層の孤立丘地形	C級	
落 折 高 原	〃	氷ノ山溶岩による溶岩台地	〃	
落 折 峡 谷	〃	急壁と峡谷地形	〃	
吉 川 峡 谷	〃	〃	〃	
頭 巾 山	用願町	急峻な地形を示す壮年山地地形	B級	
屋 住	〃	花崗岩に刻まれた峡谷地形	C級	
千 代 川 中 流	用願町 智頭町	壮大な谷壁と穿入蛇行を示す峡谷地形	B級	
箆 山	〃	古生層の壮年山地地形	C級	
津 無 高 原	佐治村	山麓階的な侵食平坦面地形	B級	
険 所 峠 面	〃	中国準平原の遺物	C級	
佐 治	〃	穿入蛇行地形	B級	指定済
穂 見 山	智頭町	古生層からなる壮年山地地形	C級	
新 見 川	〃	壮年期の峡谷地形	〃	
岩 倉 峡 谷	倉吉市	柱状節理にそって俺が形成された峡谷地形	〃	
高 城 山	〃	大山の裾野面中にそびえる花崗岩の壮年山地	B級	
小 浜	泊 村	懸谷と海岸段丘地形	C級	
泊	〃	安山岩溶岩に形成された海食崖、波食棚	B級	
笏 賀 峡 谷	三朝町	小崖錐を刻む溪流河川のV字谷地形	C級	
太 郎 田 峡 谷	〃	深いV字谷と穿入蛇行地形	B級	
鉛 山 峡 谷	〃	やや浅いV字谷地形	C級	
曹 源 寺 峡 谷	〃	上流型V字谷地形	〃	
加 谷 ～ 木 地 山	〃	〃	〃	

名 称	所在地	保 全 す べ き 自 然 環 境	評価	備 考
高 清 水 高 原	三朝町	隆起準平原遺物の可能性をもつ地形	A級	
福 山	〃	前輪廻の谷と峡谷地形	B級	
田 代 ・ 下 畑	〃	花崗岩の峡谷地形	〃	
若 杉 山	〃	準平原	C級	
北 条 砂 丘	北条町 大柴町	浜堤列の発達した砂丘	B級	
飽 津 ・ 御 崎 海 岸	赤碓町 中山町	海食によって形成された急崖地形と漂礫浜	〃	
粟 島	米子市	弓ヶ浜砂州に突出する玄武岩の孤立丘	C級	
弓 ヶ 浜	米子市 境港市	日野川によって形成された長大な砂州	B級	
法 勝 寺 川	西伯町	上流型溪谷地形	C級	
金 華 山	〃	絶壁や洞窟、奇岩を有する凝灰角礫岩の孤立丘	B級	指定済
越 敷 野	会見町	溶岩台地	C級	
要 害 山	会見町 西伯町	壮年山地地形	〃	
壺 瓶 山	淀江町	山頂部に平坦面をもつ玄武岩質の山地	〃	
赤 松 原	大山町	開析の進んでいない火砕流面	〃	
孝 霊 山	大山町 淀江町	大山の寄生火山の中で最大のトロイテ状の火山地形	B級	
大 雀	名和町	漂礫浜	C級	
大 倉 山	日南町	凹形斜面をもつ孤立山地	〃	
鬼 林 山	〃	北斜面に広大な緩斜面を有する壮年山地	〃	
猿 飛 峡 谷	江府町	峡谷地形	〃	
宝 仏 山	江府町 日野町	壮年山地の地形からなる孤立峰	〃	
鬼 住 山	溝口町	花崗岩からなる壮年山地	〃	

〔地 質〕

名 称	所在地	保 全 す へ き 自 然 環 境	評 価	備 考
円 護 寺	鳥取市	安山岩の柱状節理の発達地、学術参考地	B級	
円 通 寺	〃	円通寺礫岩の好露頭地	〃	
白 兔	〃	白兔礫岩層の模式地、学術参考地	〃	
普 含 寺	国府町	中新世の標準化石産地及び学術上の模式地	〃	
拾 石	〃	安山岩の柱状節理の発達地	〃	
岡 益	〃	植物化石の産地	〃	
宮ノ下・奥谷	〃	海産魚類化石の産地	A級	
菅 野	〃	湿原地中に形成された泥炭層	〃	指定済
亀 尻 高 原	青谷町	亀尻玄武岩の模式地	B級	
富 枝	八東町	安山岩の柱状節理の発達地	〃	
佐 治	佐治村	緑色千枚岩を原岩とした佐治石の分布地	〃	指定済
高 城 山	倉占市	大山山麓の基盤岩露出地	〃	
高 清 水 高 原	二朝町	ウツン鉱床の模式地及び植物化石の産地	A級	
上 大 立	〃	古期大山火山碎屑岩の模式地	B級	
北 条 砂 丘	北条町 大栄町	砂丘成因にかかる鍵層の分布地、学術参考地	〃	
高 姫	会見町	中位段丘を構成する礫層の模式地	〃	
一 ノ 谷	大山町	溝口凝灰岩の模式地	〃	
名 和 ・ 御 来 屋	名和町	御来屋礫層の模式地	〃	
名 和	〃	火山碎屑流（名和泥流）の分布地	〃	
多 甲	日南町	多里層の模式地、荷重痕の露出地及び化石の産地	〃	
多 里	〃	粘板岩を原岩とする松皮石の産地	〃	
宝 仏 山	江府町 日野町	角礫岩層の好露出地	〃	

表6 保全すべき景観

〔海岸地域〕

地区名	概要	備考
山陰海岸国立公園 周辺地区	金峰山及び蒲生峠付近の展望 岩井温泉西南丘陵、御湯神社、恩志付近、兵主神社、立岩山、 二上城跡一帯の広葉樹林 摩尼山頂上部の植相	
賀露～橋津海岸地区	賀露、湖山、大寺屋、白兔、末戸のクロマツ林 9号線南側斜面のタブ、シイ林 魚見台、長尾鼻、石脇東部岬の展望 湖山池の小島嶼群、石釜 矢山、吉岡、国立療養所、箕上山、三谷、布勢、天神山城跡、 山王権現社周辺等の林、馬ノ山、大平山、御冠山、鉢伏山の 展望 羽衣石城跡の広葉樹林 白兔伝承地、酒津、夏泊、泊等の漁村 吉岡、浜村、東郷、浅津の各温泉 馬ノ山古墳群、倭文神社の人文景観	一部県立公園に 指定済
北条砂丘地区	松上、東園、西園などの集落南縁のタブ、エノキ、ヤナキな どの対南風防風林 北尾古代住居跡、島遺跡及びひ由良砲台跡の人文景観	
大山北麓海岸地区 (由良～淀江)	中山町海岸のハマナスやアシサイの群落、沿道のクロマツ林 中山町松河原及び壺瓶山北麓の常緑広葉樹林 名和氏史蹟、赤碕漁港、八橋城跡、赤碕畜産試験場と東伯町 一帯の高麗シハの集団栽培景観	
弓ヶ浜海岸地区	外浜浜堤帯に弧を描くクロマツ防風林帯 内浜砂丘帯の古いクロマツ林列、集落列沿いのクロマツ屋敷 林列、栗島神社の常緑広葉樹林	

〔主要市街地周辺〕

地区名	概要	備考
鳥取	久松山の山容、植相 摩尼山塊、稲葉山山塊（池田家墓地、宇倍神社、美歎水源 地を含む） 霊石山塊、大路山、面影山、今木山及び千代川西岸平野中の 孤立丘群 庁、国分寺、法華寺などの集落景観と屋敷林	
倉吉	打吹山、巖城や打吹山南麓の八幡神社の広葉樹林 国庁裏神社社叢 伯耆国分寺跡－四天王寺－不入岡の展望 天神川と三徳川との合流点付近、及び大宮神社等の社叢	一部県立公園に 指定済
米子	城山の地形、植生 市街地内の社寺林、兼久土手の桜並木、王子製紙社宅周辺の ポプラ並木、皆生温泉地内外のクロマツ林 福成－天万－安曇周辺の丘陵又は孤立丘群に生育する広葉 樹林	

〔主要河川流域〕

地区名	概要	備考
智頭川流域	（国英～社） 釜ノロサクツ並木、樹園地、犬山神社社叢 高福攻撃面、鷹狩攻撃面、河床露岩地（用瀬） 頭巾山 露岩峰、洗足山露岩峰、篠ヶ竹穿入蛇行地形 樹形城跡、景石城跡、用瀬宿場町町並 （智頭～芦津） スキーヒノキの美林 三郡変成岩露岩の河合床 置千木止り屋根型集落、高段定置稲架、智頭町の養鯉と	

地区名	概要	備考
智頭川流域	<p>旧宿場町及び旧木地師集落 (佐治) 三王庵トチの巨木群落 青黒色佐治石河床、猿渡溪谷、尾際タム 因川和紙の産地、津野並びに津無の高位集落と高原面上からの景観 (曳田川) 曳田川上流の三滝溪 (安蔵川) 下流の花崗岩地域</p>	
八東川 袋川流域	<p>(丹比～若桜) 丹比攻撃面、玄武岩柱状節理露頭、千石岩、戸倉峠付近の溪谷と急崖 鬼ヶ城跡と樹叢、若桜宿場町の景観、重要文化財建築岩屋堂、高段定置稲架、隠遁集落(落折等) (扇ノ山、氷ノ山西麓) 姫路溪谷、妻鹿野溪谷、茗荷谷ダム、春米溪流 石屋根の集落、隠遁集落、旧木地師集落</p>	
勝部川流域	<p>八葉寺の植相、河合の斜面 マス養殖、因川和紙の産地</p>	一部県立公園に指定済
竹田川流域	<p>三朝温泉から坂本―三徳山―俵原―鹿野道沿道の溪谷美と史跡名勝地、三徳山 飯盛山の自然植相、俵原牧場、隠遁集落俵原 中津ダム、名勝小鹿溪、東西小鹿段丘集落 鉛山―小河内、田内―大谷付近の溪谷</p>	一部県立公園に指定済
日野川流域	<p>鏡ヶ成―下蚊屋溪谷と猿渡溪谷、板井原溪谷 根雨から生山地区の河床景観、石霞溪の岩石美、溪谷地形 城跡、根雨―生山の宿場町、箱棟屋根景観 板井原付近、印賀川、湯河、小原川、大木屋の各溪谷</p>	一部県立公園に指定済

第4節 保全対策

1 県自然環境保全地域の指定

県内における自然環境を保全すべき地域のうち、優れた自然の風景地については、自然公園として指定かされているが、それ以外の①高山植物、優れた天然林等の区域、②特異な地形、地質を有している区域、③動植物を含む自然環境が優れた状態を維持している海岸、湖沼、湿原、河川等については鳥取県自然環境保全条例により、順次、県自然環境保全地域の指定を行うこととしている。

現在、指定されている県自然環境保全地域は、次の表のとおりである。

表7 県自然環境保全地域

番号	地域名	所在地	面積の内訳(ha)			指 定 理 由	指定年月日
			普通 地区	特別 地区	計		
1	菅野	国府町	2.00	1850	2050	ミスゴケ等の湿原植物、溶岩台地水河期の花 粉等を有する泥炭層	昭和 52.4.8
2	香取	鳥取市	400	390	790	シイノキ林を主としたヤブツバキクフス域の 常緑広葉樹林	52.4.8
3	松上		—	520	520	シイノキ林を主としたヤブツバキクフス域の 常緑広葉樹林	52.4.8
4	笏賀	三朝町	—	320	320	シイノキ、ウツジロガシ等の常緑広葉樹林と ヒノキ、ツクシジャクナゲ群落	52.7.29
5	馬場	西伯町	—	370	370	シイノキ林を主としたヤブツバキクフス域の 常緑広葉樹林	52.7.29
6	唐川	岩美町	—	1940	1940	カキツバタ等の湿原植物、ハナチョウトンホ、 溶岩台地、花粉植物化石を有する泥炭層	53.5.12
7	金華山	西伯町	—	610	610	絶壁や洞窟、奇岩を有する凝灰角礫岩の孤立 状の山体	55.12.23
8	佐治	佐治村	2400	1880	4280	穿入蛇行地形、V字形峡谷 緑色千板岩を原石とする佐治石分布	59.9.25
9	洗足山	用瀬町	945	1355	2300	ヒメコマツ、ジャクナゲの自生地	62.11.4
10	北村 権現	河原町	120	180	300	ウツジロガシ、ヒメアオキ群落の一型である が、アサダを優占種とする特異な群落	63.12.20
11	気高殿	気高町	8.60	010	870	バイカモ等の水草の自生する湧水他とその水 源域のシイ・タブ等の常緑広葉樹林	平成 3.9.13
合計	(11地域)		49.25	9425	14350		

2 自然保護思想の普及

(1) 自然科学館と自然解説

優れた自然を保護することは私達国民の課題であるが、そのためには法律により規制をかけるだけでなく、自然の利用者ひとりひとりか自然に学び、自然の大切さを理解することが必要である。そのため県では、西伯郡大山町大山に県立大山自然科学館を、岩美郡岩美町牧谷に県立山陰海岸自然科学館を建設し、自然保護思想の啓もうを図っている。

また、これら県立自然科学館を基地として、4月から10月の期間内に自然解説を実施し、展示物の解説のほか、「大山」並びに「山陰海岸」の地形・地質、植物、動物及び人文歴史（大山のみ）等について現地解説を行い 自然に関する知識の普及と自然保護思想の高揚を図っている。

表8 平成2年度自然解説実施状況

区分 実施時期	大山自然解説		山陰海岸自然解説	
	実施日数	参加人数	実施日数	参加人数
春季(4～6月)	9日	443人	日	人
夏季(7～8月)	34	1,723	7	292
秋季(9～10月)	9	125		
計	52	2,291	7	292

(2) 青少年自然保護研修（青少年自然保護協力員養成研修）

本県の優れた自然を守り、後世に伝えていくためには、次代を担う青少年たちに、自然保護の重要性を正しく理解させることが大切である。

このため、将来各層のリーダーとしての活躍が期待される中学生を対象に、下記のとおり自然保護研修を実施した。

この事業は、昭和56年度から実施しており、自然の中での活動等をとおして、充実した研修を行うことができた。

（研修概要）

日程	平成2年8月7日～8月9日
場所	県立大山青年の家
参加校	中学2年生40名、引率教諭7名 鳥取南中学校、岩美中学校、倉吉西中学校、赤碓中学校、弓ヶ浜中学校、尚徳中学校、大山中学校 以上 7校
講師	林谷 勉（大山自然解説員） 達磨 晋（ ” ） 杉本 雅美（米子保健所） 遠藤 勝寿（大山自然解説員） 橋谷 聡（米子北高等学校教諭） 藤本 泰三（ ” ）

清水谷 登（大山保勝会）
金子 寿 征（大山隠岐国立公園管理事務所長）
研修内容 自然観察（赤松、大山寺周辺）
星天観測（スライトによる講義及び望遠鏡での観察）
グループ討議（グループ毎に自主討議）
講義 (1) 自然公園について (2) 環境問題について

(3) 自然観察健康ウォーク

県内の3地区において、広く県民の参加を求め、自然歩道を歩きながら健康づくりを兼ねた自然観察会を実施した。

この事業は、昭和63年度から実施し、多くの参加者に好評を得ている。

平成2年度実施コース

- (東部地区) 那岐山コース
- (中部地区) 打吹山・外道山コース
- (西部地区) 川床・一向平コース

第5節 温泉の現状

本県における温泉は、平成2年度末現在において、10温泉地、286源泉（利用源泉203、未利用源泉83）から平均温度55.6度の温泉水を毎分15,140リットルくみ上げ、主として観光、保養温泉として利用され、平成2年における宿泊利用人口は187万人に達している。

温泉の利用人口は、最近では横ばい状態ながら、長期的にみると漸増の傾向をたどり、国民の保養、休養の場として、あるいは農業用利用や医療施設の一つとして、又、最近の温泉フォームにより今後ますます利用されてゆくことが予想される。

これに対処するため従来、資源の枯渇、衰退現象等を防止するため、それぞれの地域に適合した掘削等の規制を行う一方、源泉の集中管理の導入を指導してきたところである。

さらに今後は、資源の衰退防止と、既成温泉地の適正な利用指針の基礎資料とするため、県下の主要温泉地について、地球物理調査、地下地質構造調査等一連の科学調査を年次計画で実施することとし、既に昭和52年度～54年度に皆生温泉、昭和55年度～56年度に三朝温泉、昭和56年度～58年度に東郷・羽合両温泉、昭和58年度～60年度に浜村温泉、昭和60年度～62年度に関金温泉、昭和62年度～平成元年度に鹿野温泉の調査を終了しており、平成元年度から3か年計画で岩井温泉、平成3年度から3か年計画で吉岡温泉について調査を実施している。

表9 温泉地別温泉利用状況

平成3年3月現在

温泉地名	源泉数 (A+B)	利用源泉地 (A)		未利用 源泉数 (B)	温 度 別 利 用 源 泉 数			平均 温度 ℃	ゆ っ 出 量 合 計 ℓ/分	主たる泉質
		自噴	動力		25℃ 未満	25℃以上 42℃未満	42℃ 以上			
※岩井温泉	9	2	3	4	—	3	2	45.0	1,221.9	カルシウム ナ トリウム-硫酸 塩泉
鳥取温泉	27	—	19	8	—	6	13	43.9	789.2	ナトリウム-塩 化硫酸塩泉
※吉岡温泉	5	—	4	1	—	1	3	46.4	985.0	単純温泉
浜村温泉	25	—	23	2	2	7	14	47.0	1,208.9	ナトリウム・カ ルシウム-塩化 物硫酸塩泉
※鹿野温泉	9	—	8	1	—	—	8	62.3	1,084.1	単純温泉
羽合温泉	10	—	5	5	—	—	5	57.9	1,628.0	ナトリウム・カ ルシウム-塩化 物・硫酸塩泉
東郷温泉	49	—	21	28	—	7	14	67.9	1,080.7	〃
三朝温泉	94	41	37	16	—	23	55	50.5	2,063.6	単純放射能泉
※関金温泉	24	2	15	7	—	8	9	41.9	429.9	〃
皆生温泉	22	1	15	6	—	1	15	69.2	3,933.0	ナトリウム・カ ルシウム-塩化 物泉
その他	12	4	3	5	—	7	—	27.1	716.4	
計	286	50	153	83	2	63	138	55.6	15,140.7	

(注) (1) 平均温度は、温泉地の全ゆ っ 出熱量を、全ゆ っ 出量で割ったものである。

(2) 温泉地名欄※印は国民保養温泉地指定温泉地を示す。